

令和4年度 1学年スピーチコンテストの概要

1. 目的

校内スピーチコンテストは、本校の特色である国際理解教育の一環として、生徒の英語のスピーキング力を伸ばすことを目的としている。

2. スケジュール

日時	内容
7～8月	事前準備（スピーチ題材選択、暗唱練習）
9月初旬	一次予選（学年で36名が2次予選へ通過となる。）
9月下旬	二次予選（学年で9名が本選に進出する。）
10月中旬	ALT 教員・指導教員による個別指導
10月26日	スピーチコンテスト本選、アンケート回答

3. 生徒による質問紙調査の結果

スピーチコンテスト本選終了後、生徒の学習成果の把握と本活動の改善を目的として、1学年の生徒を対象にスピーチコンテストに係る質問紙調査を行った(有効回答数313名)。

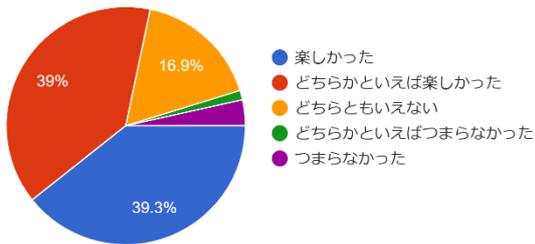


図1：スピーチコンテストに取り組む姿勢

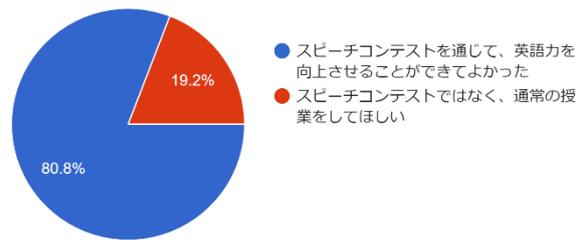


図2：スピーチコンテストに対する要望

図1は、「スピーチコンテストに取り組む姿勢」の回答を示したものである。回答のうち、約78%の生徒が「楽しかった」、「どちらかといえば楽しかった」を選択しており、スピーチコンテストに前向きに取り組むことができたと推察される。また図2は、「スピーチコンテストに対する要望」の結果であり、約80%の生徒が「スピーチコンテストを通じて、英語力を向上させることができてよかった」を選んでいることから、スピーチコンテストの事前準備から本選にかけて、生徒が英語力の向上を実感していたとみられる。生徒の自由回答では、「同級生の英語能力を知ることで良い刺激となった」、「スピーチがうまい人の特徴を知れた」などの記述があり、他の生徒のパフォーマンスから自分のスピーチの改善につなげようとしていたことがわかる。



図3：スピーチなどの発表活動に対する認識

一方で、図3の「スピーチなどの発表活動に対する認識」の項目では、「英語での発表はあまり好きではない」、「英語での発表は嫌いだ」と回答した生徒を合わせると、約40%を占めており、「話すこと(発表)」に対する苦手意識を抱える生徒が一定数いることが明らかになった。発表活動が生徒の学びの実感を得られる機会になるように、学習支援を行っていく必要がある。